

令和7年度 第1回北海道立文学館運営評価委員会

開催日時 令和7年10月31日(金)13時30分～15時00分

開催場所 北海道立文学館 地階講堂

I 次第

- 1 主催者挨拶
- 2 議題
 - (1) 令和7年度事業の実施状況について
 - (2) 令和7年度道立文学館利用者満足度調査について

II 出席委員

(敬称略；あいうえお順)

氏名	所属等
東谷 一彦	【学識経験者】 札幌国際大学短期大学部 非常勤講師
辰巳奈優美	【利用者】 公益財団法人北海道文学館賛助会員(俳人協会北海道支部 事務局長)
古内 良輔	【地域関係者】 中島公園管理事務所長(中島公園地域コミュニティ推進協議会 事務局長)
渡辺 俊之	【社会教育関係者】 公益財団法人北海道生涯学習協会 専務理事
渡部 浩士	【学校教育関係者】 学校法人聖公会北海道学園 認定こども園聖ミカエル幼稚園特別支援コーディネーター

III 委員からの意見等

委員)

いつも良い企画をご紹介していただくたびに感心します。アイデアが枯渇しないというか、次から次へとこの館に足を運びたくなるような企画が多くて、いつも感心しています。ことに教育関係者としていつも願っていることが、どうしても来館者の年齢層が50代以上になりがちだけれども、若い世代に是非この素晴らしい施設を利用する機会を増やしていただきたいと思っていて、教育関係の企画だとか、小中高生を対象としたものだとか、いろいろなものがあって素晴らしいなと思います。おばけのマールという人気の絵本が、文学館に来てくれるということは、すごくインパクトが強いと思います。子どもたちも見て、マールと一緒に文学館に行きたいなと思うのではないかと思います。

ます。そういった若い世代、小さい子供から中高生までが足を運ぶようになりますと、その世代が将来大人になった時に、もう一度ちゃんと見てみたいという感じで、どんどん来館者も増えるのではないかなと思っていますので、今後も数々の教育普及事業もそうですし、若い世代を対象としたいろいろな企画に力を入れていただきたいなと思います。

それから文学散歩も行われているところですが、私も好きです、文学散歩。その地域の文学に触れて、聖地巡礼といいますか、映画とか、アニメ映画とか全部聖地巡礼の時代ですが、文学作品の聖地巡礼も良いものだと思いますので、この企画もありがたくと思っていますので、今後も力を入れていただきたいと思います。

お願いしたいことが1点ありまして、文学館アンケート集計結果を見させていただきましたが、できれば経年変化を見たいので、例えば、前の四半期から数値がどう推移したかを見比べられるようになると、ここは増えているとか、ここは減っているなどかわかりやすいので、もし同じ質問内容が続いているのであれば、経年変化というか、推移がわかるものとして提示いただければ、助かるなと思いました。

事務局)

質問内容につきましては、ずっと変わっていない状態で一年間とり続けていますので、経年変化で見ることは可能だと思います。今後、資料としては経年変化を示す形でお示ししたいと思います。

委員)

私からは、意見というより感想になってしまいましたが、過日、安部公房展を見させていただいて、とても興味深く観ることができました。小説は結構、学生時代に読んでいましたが、奥様があのようアーティストだったことは全然知らなくて、装丁や挿絵だとか楽しく観ることができました。それから、友人で見た人がいてその方の感想では、安部公房は文学史の中や授業では知っていたが、その中では知り得なかった、食べ物がマニアックだったとか、多方面な活躍をされていたという側面。また、夫人のアーティストとしての装丁などが魅力的で、今ではジャケ買いなどという言葉がありますが、そういう装丁を見て、また、改めて読みたいという気持ちになったということで、そういう作家としての家族の肖像とか、いろんな側面を見ることができ、それが作家の展示の醍醐味であるということを感じたということでした。

それと時々購入させていただいていますが、大本靖さんのハガキが好きで何回か購入さ

せていただいていたのですが、今、在庫がなくなったということで、残念に思っていますが、これは文学館の方で特別に作られているものですか。今回は一筆箋がでたということで、早速、今日も買わせていただきましたが。俳句仲間では、俳句は縦書きですので、一筆箋の縦書きがあると皆さんお使いになるので、これが販売されていると、とてもありがたく思いますので、これからも購入させていただきたいなと思っております。これは文学館の収益になりますか。

事務局)

文学館というか、財団の収益になります。

委員)

これからも買わせていただきたいと思います。それから、私の勘違いかも知れませんが、展示会場の中に椅子がない時があったと思いますが、それは展示の内容によって狭くって椅子が配置できなかったということがあるのでしょうか。

事務局)

できるだけ椅子を置きたいと思って展示の順路を考えますが、どうしても資料数が多くなってしまったときに、物理的には置けますが、必ず車椅子が通れる1.2mの通路を確保するというハードルを考えながらやっていて、置けなかった場合もありますが、なるべく置くようには心がけています。

事務局)

先ほど見ていただいた「長谷川四郎とそのきょうだい」展は、展示物が多いものから一周するのに時間が掛かります。それで、ご高齢の方とか、体力がない方とかは疲れると思うので、椅子が必要だという意見はもっともだと思います。今後も可能であれば配慮していきたいと思えます。

委員)

高齢の方が展示を見る場合が多いので、とても配慮していただいているとは思いますが、これからもよろしく願います。

アンケート意見で、トイレを改善してくださいというのは、女性の和式トイレのことでしょうか。和式トイレがあるからということでしょうか。

事務局)

これ以上は書いていなくて、具体的なことはわかりませんが書いていただければ即対応したいと思います。

委員)

まずは感想ですけど、これまでのご説明を伺って、(お金の) 制約のあるなかで、ご苦労されているのかなということが伝わってきました。

私も安部公房展を見させていただきましたが、活動が多岐にわたる方なので、どういう展示になるのかなと興味があったが、やっぱり見てすごいな、こういうまとめ方をされるのかと感心して観ていました。最後の所までくると安部公房が実際の仕事をしている様子が察せる場所があったりとか場面があったりとか、確か声だけが聞ける場所があったりとか、あれはびっくりしましたが。すごい美声で、良い声をしていました。これは私の個人的な感想ですが、彼の文学者としての面がとても大きなイメージなので、その部分が逆に、あえていろんなものがあるけど、文学者としての安部公房という点でどうだったのかなとちょっとだけ感じたことがありました。

素晴らしい、こういうまとめ方をされたら、逆にこれでスペースの余裕があって100%の展示だったらどうなったのかなというところに、また、逆に興味があったところでは。

今日の資料を見たところ、ミニ巡回展というのがあって、すごいですね、4千人の町で6千何人が入っている。このいくつかの地方でいろんな人が集まっているということですか。

事務局)

展示している場所の条件にもよりますが、カウントは各施設でやっていただいて、施設の入り口で展開しているような場合には、施設に入った人は必ずそこを通る場合にカウントされるケースもあるようですので、この施設に入った人ともいえます。

委員)

それでもこれだけの数字で、実際にとにかく目にして、文学館というものを知らただく機会になってくれればと思いました。

それからトイレの改善ですね。私も少し感じました。道立美術館でも同じことを感じ

ましたが、和式トイレはもういらぬのではなぬか、臭いもしますし、そのへんを書かれたのか、わかりませんがわたしも感じました。

事務局)

トイレの関係、施設の関係ですが、築30年たちましていろいろなところに不具合が出てきています。来年度は、トイレではありませんが、ボイラーについて改築する予定です。道教委の施設を所管しているところに、いろいろお伝えする機会もありますので、改善できる部分は改善していきたいと思ひます。

委員)

3度目の参加です。文学には疎いものですから、いつも素人目線の意見を言わせていただくことが多いのですが、今回も参考になればということだ。

先ほどからお話があった形で、子どもさんが文学に親しむというところのきっかけになる方策というか、なかなか最初の段階でこちらに足を運んでもらうということにハードルが高い時に、先ほどの巡回展とか、こどもが親しめるような展示だとか、あとはお祭り、そういったものをたくさん企画されているということで、正直なところ、私が個人的に感じているのは、今の時代、本当に情報量が多い時代、ちょっと逆説的な話になりますが、昔の方が豊かな時代だったのではないかとこの年になって思う時があつて。ただ、私も大学生と中学生の娘がいますが、文学に親しむということでは、どちらかというと映像だったりとかスマホとか、そういう時代になっているので、そこに触れるきっかけもなかなかなかったりとか、積極的に触れていくという機会もなかなかない世代なのかなということだ、多くがそこに触れて、興味を持って貰えるかは別としても数少ない、そういう興味を持って貰える方をすくい上げるような企画が進めればいいのかと思ひました。

感想としてですが、今日見せて貰った特別展示室、毎回見させていただく機会があつて、今日、本当に展示室を見た時に、以前と様変わりしたような展示の方法というか、部屋自体の大きさは一緒だと思ひますが、導線なんかも、途中の間仕切りの配置の仕方によつても、こんな部屋だったかなと思わせるような空間の作り方とか、本当にすごく工夫されていると思ひました。のれんというか、展示の区切りとしてはわかりやすいなとおもつて、いろいろなアイデアを出しながら展示をやっているのが見えるというところでは、本当に素晴らしいなと思ひました。

あともう一点、文学館ということで、文学というところにフォーカスがあたりがちで

すけど、今回の展示でも絵画とか、お客様も音楽とか美術系のものとか、もしかしたらスポーツとか関連して、当然文学を中心にしていますが、美術とか音楽とかすごくつながりが強いものなので、そういうものと絡んでくると、もっともっと興味を持つ人間が増えてくるのかなと思いました。

質問が一つありますが、年間の特別展の企画やアーカイブ展の企画は、実際どんな感じでアイデアを出して決めているのか、すごく気になっていて、それに付随して人数目標というのが、それぞれの展示によって差がありますが、どうやって決めているのか、素朴に疑問に思ったので、もしお答えできる内容であれば教えていただきたいなと思いました。

事務局)

ある時期になると文学館の関係者、具体的には職員、理事の方々を含めて皆さんにご案内をして当館で意見を聞きます。結構な数のアイデアがあがってきて、それを集計して、その中から何を選んでもらうか。また、企画会社という、文学展を売っている、こういう企画展ならできるという情報も集まってきて、また、全国文学館協議会という組織に加盟していて、こういうセットだったらいくらで貸出せるとか、そういう情報をひとつのまな板に載せて、そのうえで話し合いを行います。

企画検討委員という組織が理事や評議員の中から10名任命されていて、その人たちと現場の職員に、アンケートを取り、その結果を踏まえながら会議を毎年2から3回行いながら決定していきます。特別展は、そんな感じです。

アーカイブは、現場の職員が特別展の決まった後に、特別展の内容とのバランスを見ながら提案してきています。

事務局)

人数目標については、一番は、当館でやった同様の展覧会を参考にして考えているのが実際のところですが。他館の場合でその展示はどうだったか聞きますが、規模が違いすぎて、うちの展示室に入る規模とまったくイコールには考えづらいが、そういうことも参考にしています。指定管理を受けていることもあって、一定の観覧者を集めて展覧会をやることになっているので、前の展覧会ではこれだけ人数が集まったから、もう少しがんばってこの人数にしようかというように決めています。

委員)

文学館同士のやり取りでもお金がかかるということですか。

事務局)

公立館では、無料のところもありますし、財団などで運営経費をそういうところで捻出している館もあります。中心にある日本近代文学館から借りる場合は、かなりの料金が掛かります。

委員)

アンケートの中には、実際に年齢とか居住地などの区分が集計されていますが、来館された方の性別、年齢などのデータはとっていないのか。

事務局)

入り口では、年齢をうかがっていません。性別もつけていません。ただ、アンケートを書かれた方の状況を把握しているだけで、全員の方の年齢を聞くことはありません。65歳以上は料金が掛からないので、そこはわかります。

委員)

高齢者料金があるということは、高齢者の割合と一般の割合は、当然把握されていると思いますが、それでもこのアンケートに出ているような属性に近い、高齢の方がメインになって、50代以上の方が多いいということで、間違いありませんか。

事務局)

手元に数字を持っているわけではありませんが、やはり50歳以上の方が多いいのが実情です。そんなこともあって、マールじゃあないですが、教科書に載っているようなもので、子供を連れてきていただき、若いご夫婦も来ていただけるような視点を入れながら企画しています。

委員)

今の話を聞いたのは、若い方があまり来られていないというか、来てもらうのに難儀しているという内容も理解できますが、高齢の方がこれだけ文学に親しまれるという状況が、あってしかるべき状況なのかなと思います。そういう方へのアプローチも並行してされていることだと思いますが、来館者がそこで増えていくということがあれば、必

ずしも若い人がどんどん増えていかなければならないということでもないかなと、個人的には思うところです。もちろんそこもおろそかになるわけでもないですが、そういった興味を持っていただく方がこういう年代層に多いので、そういう年代層に直接アプローチできる方法、方策を採っていくことも一つの大事なことなのかなと思いました。

事務局)

我々も指定管理を受けて収益を当然あげなければならないものですから、全体的に入館者が増えていくのが理想ですが、将来を担う若者の方々に少しでも文学館について興味関心を持ってもらえるような仕掛けについて意識しながらやっていきたいと思えます。

事務局)

いろいろ様々な貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。いただきました御意見につきましては、今後の当館の事業運営に生かしていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。